

家庭学習応援だより

第3号

1学期末が近づいてきました。昨年度は、学期末 PTA を実施していましたが、今年度は7月末に二・三者面談を行うので、開催しません。二・三者面談では、お子様の1学期の学校・家庭での様子について十分に情報交換し、子どもたちの成長につながる機会としていただければと思います。

さて、「進んで学習に向かう子」と「なかなか勉強をしようとしないう子」の差は、どうしてできるのでしょうか。また、家庭ではどんなことを心がけたらよいのでしょうか。今号では、この辺りを科学したいと思います。



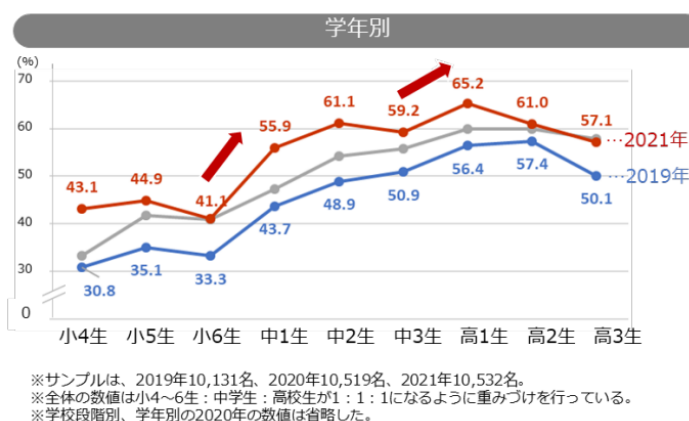
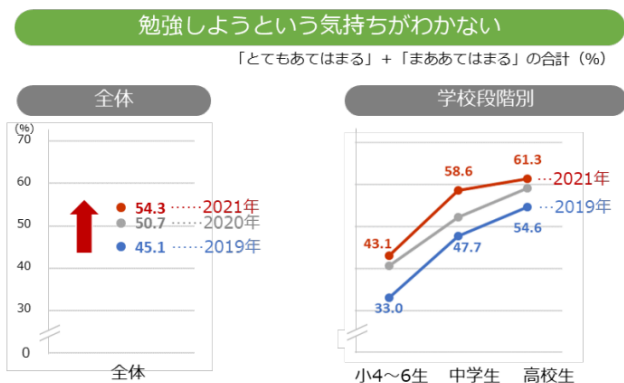
勉強の仕方がわからない = 成績が上がらない

「いくら言っても勉強しない」「塾に通っているのに成績が上がらない」とお悩みの親御さんはいないでしょうか。日本の子どもは諸外国に比べ、学習意欲が低いのは元来言われてきたことです。ここ数年のコロナ禍により学習意欲がさらに下がっていることが東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所の共同研究で明らかになりました。その傾向は小学生で顕著に現れており、報告では「最もインパクトを受けた可能性がある」としています。この傾向は、2022年の速報値でも歯止めがかかりません。

ではなぜ、子どもたちは勉強しようという気にならないのでしょうか。最新の調査では、学習意欲には「上手な勉強の仕方」「授業が楽しい」「自分の進路(将来)を考える」などの要因が関連していることがわかりました。中でも、「**上手な勉強の仕方**」は、**学習意欲と強い関連があり、成績との相関関係は学習意欲よりも強い**という結果が出ています。つまり、学習意欲がわからないから成績が上がらないというより、そもそも勉強の仕方がわからないから、勉強する気になれず、結果的に成績が上がらないという構図です。逆に、勉強の仕方さえわかれば、授業も楽しくなり、成績は上がってくるということです。

しかし現実には、上手な勉強の仕方がわからない子どもは全体の7割に増えています。確かに、私の肌感覚でもここ2、3年の学習への意欲の低下は感じられます。これはかなり衝撃的な数字だと思います。

■ 図1 学習意欲の変化 (2019年、20年、21年の比較)



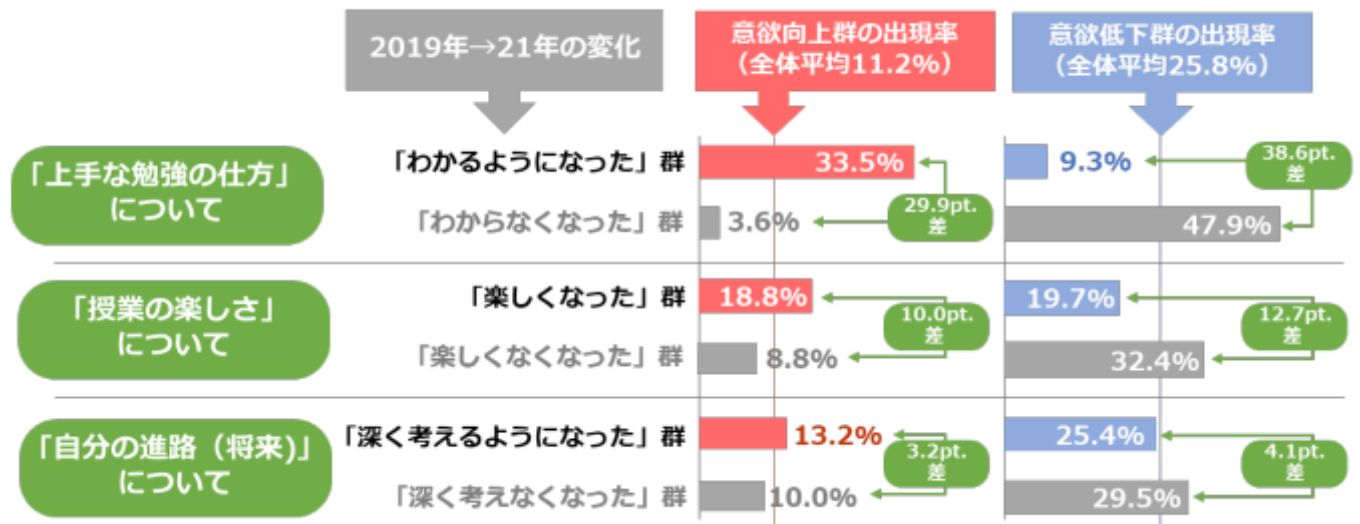
■ 図2 学習意欲の変化 (個人の変化)



※2019年の小4生~高1生が、2021年に小6~高3生になるまでを追跡した。サンプルは、7,227名。
※ここに示す個人の変化には、個人の成長(学年の変化)の影響と、時代の変化の影響の双方が含まれる。
※「勉強しようという気持ちがわからない」に対する2019年の回答と21年の回答からグループを分けた。「とてもあてはまる」「まああてはまる」を意欲低群、「まったくあてはまらない」「あまりあてはまらない」を意欲高群として、高群→高群を「意欲高いまま(変化なし)」、低群→高群を「意欲向上群」、低群→高群を「意欲低下群」、低群→低群を「意欲低いまま(変化なし)」とした。



■ 図3 学習意欲の変化に関連する要因



※2019年の小4生～高1生が、2021年に小6～高3生になるまでを追跡した。サンプルは、7,227名。
 ※ここに示す個人の変化には、個人の成長(学年の変化)の影響と、時代の変化の影響の双方が含まれる。
 ※「上手な勉強の仕方」については、「上手な勉強の仕方が分からない」に「とてもあてはまる」「まああてはまる」をわからない群、「まったくあてはまらない」「あまりあてはまらない」をわかっている群として、2019年から21年にかけてわからない群→わかっている群に変化した者を「わかるようになった」群、わかっている群→わからない群に変化した者を「わからなくなった群」とした。
 ※「授業の楽しさ」については「授業が楽しい」に「とてもあてはまる」「まああてはまる」を楽しい群、「まったくあてはまらない」「あまりあてはまらない」を楽しくない群として、2019年から21年にかけて楽しくない群→楽しい群に変化した者を「楽しくなった」群、楽しい群→楽しくない群に変化した者を「楽しくなくなった群」とした。
 ※「自分の進路(将来)」については、「自分の進路(将来)について深く考える」(複数選択の1項目)に対して選択した者を考える群、選択しなかった者を考えない群として、2019年から21年にかけて考えない群→考える群に変化した者を「考えるようになった」群、考える群→考えない群に変化した者を「考えなくなった群」とした。
 ※いずれも、 $p < 0.001$



家庭でできる楽しく学べる環境づくり

勉強に取り掛かるのが遅い子や続かない子、やらない子に対して、多くの親御さんが悩んでいます。何回もこの手の相談を受けてきました。ここでは、どうすれば楽しく学習に取り掛かれるかを考えてみたいと思います。

これらの子たちの多くは、そもそも勉強が好きではないということです。そして、勉強が好きではないのは、いろいろなことへの知識が不足していることと知的な興味関心が育っていないことが原因です。この点が問題で、ここを変えていく必要があります。

毎日の生活や遊びの中で楽しみながら知的な興味関心に目覚めさせることです。これは、一見遠回りのようで、低い学年の子ども程近道かもしれません。日々の生活を知的な刺激にあふれたものにしてあげてください。生活や遊びの中で、楽しみながら知的に鍛えてあげてください。そうすると、だんだん勉強が好きになってくると思います。しばらく続けているうちに、ある日突然、思いがけない形で、その効果を目にすることでしょう。そして、その効果の大きさに驚かされるでしょう。

おわりに

最近、本校の子どもたちを見ていて実感として考えるようになったことの一つに、マナーやルールを身に付けているかどうか、「子どもの今後の成長にはっきりと差に表れるだろう」、ということです。ここで伝えきれない場合は、また別な機会でも触れようと思います。

なぜそう思うかは、**子どもがマナーやルールを身に付けないことで起こりうるリスクが容易に想像できる**からです。では、どんなリスクが考えられるでしょう。すぐに思いつくこととして、①友達など対人関係で不利益を受ける、②自分勝手に利己的な人は嫌われる、③周りからマイナスの印象を受け、それがさらに他の人に伝わっていく、です。「多少悪くても、子どもだから仕方ない」。確かに、完璧なマナーやルールを身に付けることは簡単ではありません。しかし、それらをないがしろにすると、子どもの成長にとってマイナスに働くと考えますが、皆さんはどう思いますか。